

リオンの
風

©atsushi tanida

第105期
事業報告書

2025.4.1-2026.3.31

CONTENTS

一目でわかる決算情報	1
トップインタビュー	3
～流れ場における粒子の物性推定手法を製品化～	
特集1 世界初の「流体力学式液中粒子計数器 PT-01F」をご紹介します	7
～技術と品質へのこだわりに触れるリオネット補聴器工場見学会を開催～	
特集2 大阪・関西万博で使用された間伐材ベンチを国分寺市役所、市内の小学校などへ寄贈	9
特集3	10
トピックス	11
業績の推移	12
会社案内	13
株主メモ	14
残したい“日本の音風景100選”	裏表紙

残したい“日本の音風景100選”

◀ 音の情景は裏表紙をご覧ください。

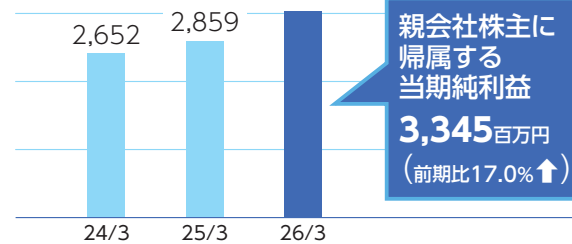
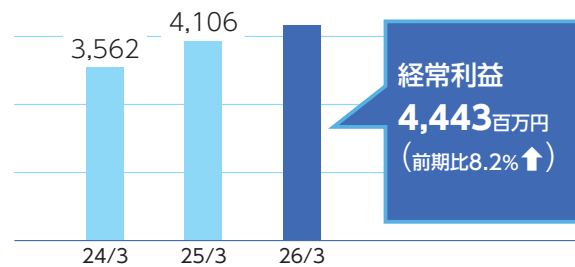
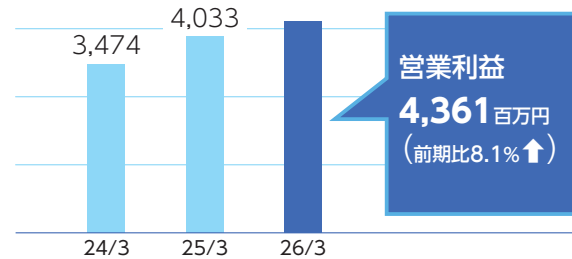
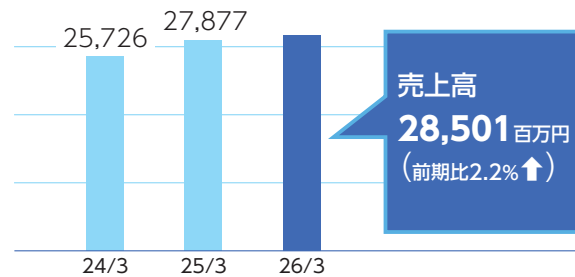
決算のポイント

- 売上高は5期連続、営業利益・経常利益・当期純利益は3期連続で過去最高を更新

2026年度の見通し

- 新製品の投入や成長分野への継続的な投資によって、事業全体で増収増益を見込む

決算ハイライト



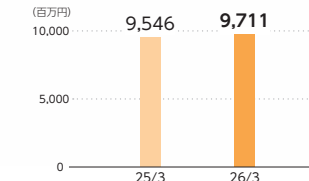
事業別ハイライト

微粒子計測器事業



売上高 **9,711**百万円 (前期比1.7%↑) 営業利益 **2,391**百万円 (前期比14.0%↓)

微粒子計測器



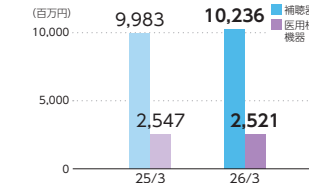
液体や気体の中に浮遊する微粒子を測定する計測器を提供し、高い清浄度管理が求められる半導体や医薬品などの製造現場では、高い信頼を獲得しています。当期は世界各地での半導体製造設備の新設・増強を受け、半導体製造工場で使用される液中微粒子計測器の販売が堅調に推移しました。一方で、将来への投資として生産能力強化や最先端機種に関連する開発費の増加などにより、増収減益となりました。

医療機器事業



売上高 **12,757**百万円 (前期比1.8%↑) 営業利益 **1,236**百万円 (前期比13.4%↑)

補聴器/医用検査機器



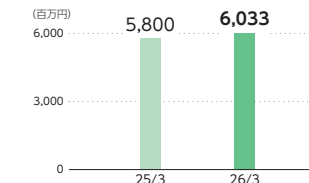
難聴の発見から解決まで一気通貫の価値を提供し、一人ひとりの聞こえに寄り添っています。当期は補聴器において、新製品「リオネットプラスシリーズ」が市場のニーズを捉え、販売が好調に推移しました。一方、医用検査機器では大型聴力検査室の販売が好調だったものの、医療機関において設備投資に慎重な姿勢がみられたことから、売上は前期並みとなりました。これらの結果、医療機器事業全体では増収増益となりました。

環境機器事業



売上高 **6,033**百万円 (前期比4.0%↑) 営業利益 **733**百万円 (前期比348.2%↑)

音響・振動計測器



騒音計、振動計、地震計など、環境行政や産業の多彩なニーズにきめ細かく応える製品を提供し、国内外の環境・産業計測市場を支えています。当期は国内市場において、鉄道などのインフラ関連の設備投資需要が継続しているなか、騒音計・振動計等の更新需要を取り込んだほか、海外市場においても販路拡大により販売が堅調に推移しました。加えて、業務効率改善の推進により収益力が向上し、増収増益となりました。



代表取締役社長

か とう こう き
加藤 公規

**売上高は5期連続、
各利益は3期連続で過去最高を更新。
将来を見据えた投資戦略により、
企業価値向上を推進します。**

Q 通期の業績と2026年度の見通しについて、お聞かせください。

2025年度の業績は、3つの事業すべてにおいて過去最高の売上高を達成しました。特に、環境機器事業では、国内のインフラ関連需要の取り込みが着実に進んだことに加え、海外市場でも販路の拡大が進み、全体の業績を牽引しました。また、医療機器事業においても、補聴器の新製品「リオネットプラスシリーズ」が市場のニーズを的確に捉え、販売が好調に推移しました。

さらに、微粒子計測器事業では、生成AIの普及などを背景とした半導体関連市場の設備投資需要が世界的に高水準で継続する中、半導体工場向け液中微粒子計の販売が堅調に推移しました。一方社内においては、生産能力の強化や最先端技術に対応する製品開発を進めたことにより、利益面では一時的な減少要因となりましたが、これらは今後の需要拡大に対応するための重要な投資であり、当社の競争力強化と中長期的な成長につながるものと考えています。

今後の見通しについては、半導体関連市場の拡大が続く中で、微粒子計測器事業は中長期的な成長ドライバーとして着実な伸長を見込んでいます。医療機器事業では、補聴器と医用検査機器の両分野における強みを活かし、医療機関や全国の販売店との連携を深め、安定的な収益基盤の強化を図ります。環境機器事業においても、インフラ需要の取り込みに加え、騒音計や

振動計などの計測器とクラウドやIoTを組み合わせた新たなソリューションの提供により、事業領域の拡大に取り組んでまいります。

このように各事業の成長機会を確実に捉えながら、製品力と提案力の強化を進めることで、持続的な事業拡大と収益力の向上を実現していきたいと考えています。

Q 社長就任1年目を終えて、どのような気づきや考え方の変化があったかお聞かせください。

この1年を振り返ると、当社のどの事業にも確かな将来性と成長の余地があることを再認識しました。現場視察の一環として、補聴器販売店の店頭業務を体験した際には、社員がお客様一人ひとりに丁寧に寄り添う姿や、対話の中で生まれる笑顔はとても印象的でした。補聴器が「聞こえ」とともに安心や喜びを届けていること

企業理念

リオンはすべての行動を通して人へ社会へ世界へ貢献する

この企業理念は、次に掲げる意義を表わす。

- 1 "社会に対し"悪しきことをしない"ことではなく"良きことをなし貢献する"
- 2 "社会貢献こそが究極の目的であり、収益の確保と投資はそのための手段にほかならない"
- 3 "従業員が志と使命感を抱き、誇りを持って、業務を通じて社会に貢献する"
- 4 "社会貢献の志と力量のある人材を育成し、輩出し続ける"

経営理念

- 1 クオリティーオブライフ (生活の質の向上)
当社は、当社製品をご愛顧頂くお客様の"生活の質の向上"を目指して、従業員が丸となって誠心誠意努力する
- 2 バリアフリー (障壁のない社会)
当社は、当社製品をご愛顧頂くお客様が"障壁"を感じることなく市民社会で活躍できる製品・サービスを提供する
- 3 エコ・マネジメント (環境管理)
当社は、企業の社会的責任の一環として、全事業分野において環境負荷の低減を意識した活動を実践する

を強く感じる機会となりました。また、代理店や協力会社の皆さまと接する中で、当社に寄せられている期待や、果たすべき役割を直接感じ取ることができました。このような経験を通じて、当社が向き合うテーマはいずれも社会的意義が大きいものだと改めて感じています。時代の変化を捉えながらその役割を発揮することで、当社の活躍の場は着実に広がると考えています。

また、人前で当社の歩みや事業を語る機会が増えたことをきっかけに、社史に立ち返り創業の思いを見つめ直すとともに、自社で発行している技術情報誌『リオンテクニカルジャーナル』や現場との意見交換を通じて、当社の技術や強みへの理解を一層深めてきました。開発や製造の現場経験がない私にとって、担当者から背景や理論、工夫を直接聞く時間は大きな学びです。自ら現場に足を運び、対話を重ねる中で、社員一人ひとりが持つ個性や強み、そして組織としての潜在力の大きさを改めて実感しています。その一方で、会社としての考えや意図が、時として十分に伝わりきれていない場面や、情報共有の方法をより良くできる余地も見えてきました。こうした点を解消していくことは、組織全体の力をさらに発揮していくうえで重要なテーマだと受け止めています。個々の力を最大限に引き出し、

それを組織の力へと高めていくことが、経営の重要な役割であり、当社のさらなる成長を生み出す“伸びしろ”だと考えています。

Q 株主様向けリオネット補聴器工場見学会を通じて、特に印象に残った点や新たに得られた気づきについてお聞かせください。

工場見学会は非常に密度の高い時間となりました。補聴器は精密かつ手作業による製造が中心のため、一度に多くの方をご案内することは難しく、限られた人数での実施となりましたが、その分、株主の皆さまとの距離が近く、質問や意見が自然に行き交う、まさに対話型の見学会となりました。特に製造工程をご覧いただいた際に、実際の作業を間近にしながらその場で疑問にお答えで



工場見学会で株主の皆さまの声に耳を傾ける加藤社長(左から2人目)

きることは、当社ならではの工場見学の特長だと感じています。現場の空気感や品質へのこだわりは写真や言葉だけでは伝わりにくい部分もあり、それらを直接体感いただけたことは非常に意義のあることだと思います。また、最後の質疑応答の場では株主の皆さまから活発にご質問やご意見をいただき、私自身にとっても新たな気づきを得る機会となりました。今後も当社への理解を深めていただく機会を積極的に設けてまいります。

Q 株主様との対話を重視する中で、株主還元や今後の経営方針についてお聞かせください。

当社としては、配当は事業成長の成果の一つと位置づけており、まずは成長に向けた投資を

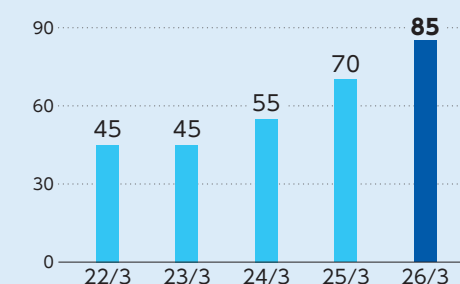
着実にを行い、事業を拡大し、収益力を高めたいと株主の皆さまに還元していく——この好循環を回していくことが重要だと考えています。また、この好循環を持続的に実現していくためには、当社の考えについて株主の皆さまにご理解いただくことが不可欠であると考えており、その一環として工場見学会や会社見学会の開催を通じて対話を重ねています。

このような考えのもと、2026年度中期経営計画では、2031年3月期の目標として連結売上高350億円以上を掲げています。これは現状の延長線上では達成が難しい水準であり、新たな取り組みに挑戦していく意思を示したものです。社員一人ひとりの主体性と組織の結束を原動力に目標達成に向けて着実に歩みを進めてまいります。

株主還元に関する基本方針

当社は、株主様に対する利益還元を経営の重要政策のひとつと認識しており、継続的な配当の維持と業績に応じた配当水準の向上に努めるべく、累進配当の実施を基本方針としております。内部留保金の使途につきましては、企業価値の増大を図ることを目的として、中長期的な事業拡大のため、研究開発・製造設備等に戦略的に投資し、長期的な競争力の強化を目指してまいります。なお、剰余金の配当は、中間と期末の年2回実施しております。

1株当たり年間配当金の推移 (単位：円)



～流れ場における粒子の物性推定手法を製品化～ 世界初の「流体力学式液中粒子計数器 PT-01F」をご紹介します

当社は、半導体製造工程で使用される薬液や純水の品質管理に用いられる微粒子計測器の開発・製造を行っています。これまで培ってきた光散乱測定技術を基盤に、新たに開発した測定手法により、粒子の物性推定を可能とした新しいコンセプトの微粒子計測装置を製品化しました。本特集では、その背景や特長をご紹介します。

：開発の背景

半導体工場では、製造工程で使用する超純水や薬液に含まれる小さな粒子の管理が行われています。近年は、粒子の大きさや数だけでなく、気泡や樹脂、金属など、粒子の種類を把握する重要性も高まっています。粒子の種類を把握することで、製品不良や装置トラブルの原因を特定しやすくなるため、このような情報をリアルタイムに把握できる装置が求められています。

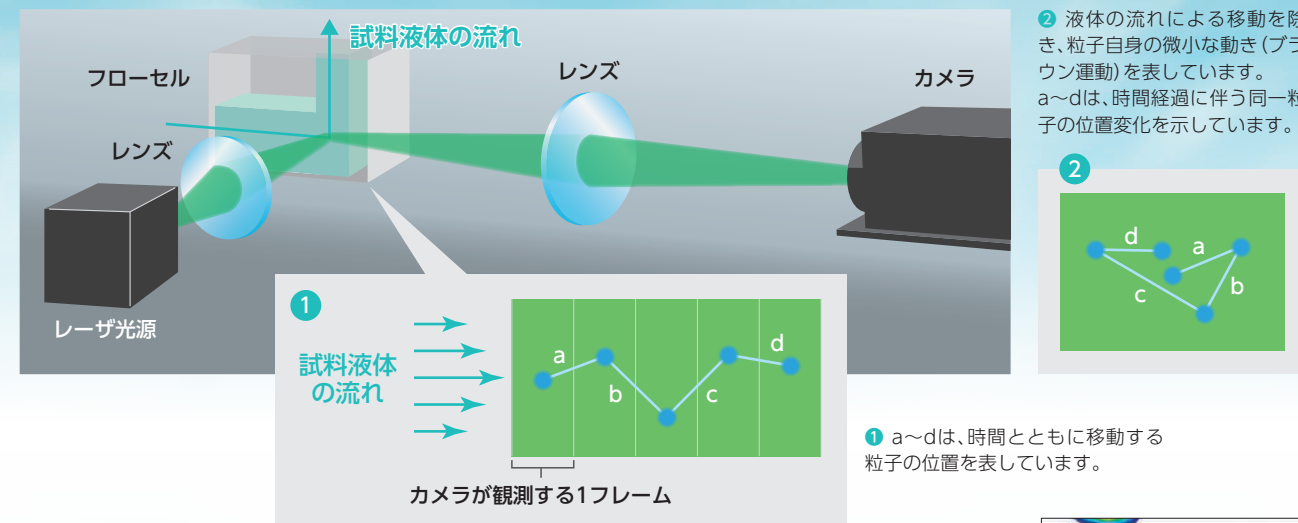
こうしたニーズに応えるため、当社は、国立研究開発法人産業技術総合研究所およびキオクシア株式会社と共同で開発した「流れ場粒子追跡法(FPT法)」を用いた粒子の物性推定手法を基に、世界初*の「流体力学式液中粒子計数器 PT-01F」を開発しました。本製品は、液体中の微小な粒子の動き(ブラウン運動)をもとにその大きさを測定するとともに、粒子に当たって広がる光(散乱光)の特徴から、屈折率などの粒子物性を推定します。これにより、粒子の大きさと物性を同時に把握することが可能となりました。

*流れ場における粒子の物性推定を可能とする製品として(2026年3月時点/リオン調べ)



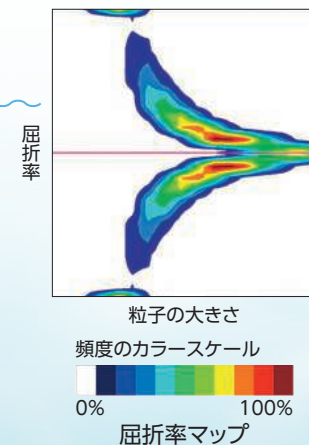
流体力学式液中粒子計数器 PT-01F

測定イメージ(粒子の動きを追跡)



：製品の特長

流れ場中における粒子の動きを解析することで、製造ラインを止めることなく、粒子の大きさや屈折率などの粒子物性をリアルタイムで測定することが可能となりました。これらの情報を屈折率マップとして可視化することで、粒子の状態を直感的に把握でき、半導体製造工程における粒子管理や不具合原因の解明、歩留まり向上に貢献します。



：新たな挑戦に向けて

高度化が進む半導体製造工程において、薬液などの品質管理を支える計測技術は、さらなる進化が求められています。当社は、お客様の生産性向上と産業の発展に貢献するため、製品開発を通じた新たな価値の創出に、引き続き取り組んでまいります。

技術と品質へのこだわりに触れる

リオネット補聴器工場見学会を開催

株主の皆さまに当社事業への理解をより一層深めていただくため、リオネット補聴器の工場見学会を2月12日(木)と2月19日(木)に実施しました。多くの株主様にご応募いただき、厚く御礼申し上げます。

当日は、まず当社代表取締役社長の加藤より会社概要をご説明し、続いて医療機器事業部長の太田より事業内容をご紹介しました。その後、オーダーメイド補聴器の製造工程を2班に分かれて見学いただきました。見学では担当者が同行し、各工程におけるポイントを随時解説。熟練技術者による丁寧な手作業や、製造現場ならではの工夫についてもご紹介しました。普段なかなか目にするのことができない、ものづくりの現場を体感いただく機会となりました。

見学後の質疑応答では、製品に関する内容から業界の動向、将来の展望など、幅広いご質問が寄せられ、株主の皆さまの高い関心を実感する場となりました。

今後もこのような機会を通じて株主様とのコミュニケーションを大切に、当社への理解と信頼の向上に努めてまいります。



耳型データから始まる
オーダーメイド補聴器づくり



補聴器の実物に触れ、
ものづくりを体感



熟練技術者の精密な作業に、
視線が集まる



多くの関心が寄せられ、
活発な質疑応答のひとつ



ご参加いただいた方の感想

補聴器がどのように作られるのかを詳しく知ることができ、大変勉強になり、面白かった。



熟練の技術者の作業が印象的で、ずっと見ていたかったです。ほかの工程も、ワクワクしながら拝見しました。



直接の接点を得られると、愛着がわきます！社長から今後のお話も伺うことができ、有意義な時間となりました。



大阪・関西万博で使用された間伐材ベンチを

国分寺市役所、市内の小学校などへ寄贈



このたび、大阪・関西万博^{*1}で実際に使用された間伐材ベンチ19台を、国分寺市役所をはじめ、市内の小学校やcocobunjiプラザ リオンホールへ寄贈いたしました。

当社は万博の「Co-Design Challenge^{*2}」プログラムの一環として、未利用間伐材を活用したベンチ設置プロジェクトに協力し、環境資源の有効活用と持続可能な社会づくりに取り組んでまいりました。

万博の会場で多くの来場者を迎えたこれらのベンチが、今後は地域の皆さまの休息や交流の場として親しまれ、会場に満ちていた熱気やにぎわいを思い起こす存在となることを期待しております。未来社会への思いを共有する一助として、地域に根ざした貢献をこれからも続けてまいります。

寄贈内容 ● 小学校：10台(市内各小学校に1台ずつ) ● 国分寺市役所：6台 ● リオンホール：3台

※1 大阪・関西万博とは『いのち輝く未来社会のデザイン』をテーマに掲げ、未来社会の体験と共創の場として、万博は2025年4月13日から10月13日までの184日にわたり開催されました。158の国と地域が参加し、気候変動やエネルギー問題など、持続可能な社会の実現に向けた課題に取り組むきっかけを提供しました。

※2 Co-Design Challengeとは大阪・関西万博を契機に、様々な「これからの日本の暮らし(まち)」を改めて考え、多彩なプレイヤーとの共創により新たなモノを万博で実現するプロジェクトです。

詳細はこちら▶
<https://www.expo2025.or.jp/co-creation-index/co-design-challenge/>



環境資源の活用から生まれたベンチ。万博会場から国分寺市内へ



1 TOPICS 振動測定で生産設備の管理・状態監視を効率化 故障診断プログラム「VX-14D」を発売

当社は、製造業の生産設備の状態監視や故障診断を効率化する、振動測定による故障診断プログラム「VX-14D」を2026年1月16日に発売しました。本製品は、振動分析計「VA-14」に機能を追加する専用プログラムであり、独自の判定技術により、専門知識や経験が少ない場合でも設備の状態を的確に把握できる点が特長です。さらに、故障の進行状況や判定結果をデータとして蓄積できるため、効率的な設備管理や不良品の出荷防止に貢献します。これにより、生産設備の安定稼働と品質向上を支え、お客さまの生産性向上に貢献してまいります。



測定画面 故障診断結果画面 ISO 10816-1で規定されたゾーン

製品に関する情報はこちらです。

→ <https://svmeas.rion.co.jp/products/VA-14.html>



2 TOPICS グループ一体で高める企業価値—持株会制度拡充の取り組み

当社では、従業員の長期的な資産形成を支援するため、1995年に従業員持株会制度を導入し、運営してまいりました。近年では、従業員一人ひとりの中長期的な企業価値向上への参画意識や、当社へのエンゲージメント向上の観点から重要な制度と位置づけております。このたび、資本市場を取り巻く環境の変化や人的資本強化の観点を踏まえ、リオングループにおける持株会利用の促進を目指し、制度内容を見直しました。奨励金付与率の引き上げや対象範囲の拡大により、株主様との価値共有を進めるとともに、グループ全体のエンゲージメントを高め、企業価値の向上を図ってまいります。

制度拡充の内容

① 奨励金付与率の引き上げ(2026年3月改定)

	改定前	改定後
奨励金付与率	3%	15%
奨励金額	1口1,000円につき30円	1口1,000円につき150円

② 制度対象範囲の拡大(2026年3月改定)

名称	改定前	改定後
リオン従業員持株会	リオン株式会社の従業員	リオン株式会社と国内子会社の従業員

主な経営成績 (単位:百万円未満切り捨て)	2022年3月期 (第101期)	2023年3月期 (第102期)	2024年3月期 (第103期)	2025年3月期 (第104期)	2026年3月期 (第105期)
売上高	22,635	23,868	25,726	27,877	28,501
営業利益	3,104	2,844	3,474	4,033	4,361
経常利益	3,212	3,007	3,562	4,106	4,443
親会社株主に帰属する当期純利益	2,229	1,799	2,652	2,859	3,345
純資産	25,289	26,612	29,211	31,435	34,803
総資産	33,157	34,557	37,140	39,132	41,784
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,841	1,783	2,857	3,437	4,165
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 951	△ 3,246	△ 2,652	△ 1,685	△ 753
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 541	△ 577	△ 565	△ 748	△ 954

1株当たりデータ (単位:円)

純資産	2,057.40	2,163.30	2,372.88	2,551.75	2,822.57
当期純利益	181.41	146.33	215.51	232.19	271.41

主な指標 (単位:%)

自己資本比率	76.3	77.0	78.7	80.3	83.3
ROA(総資産経常利益率)	10.1	8.9	9.9	10.8	11.0
ROE(自己資本当期純利益率)	9.1	6.9	9.5	9.4	10.1
配当性向	24.8	30.8	25.5	30.1	31.3

詳しい財務情報は当社IRホームページをご覧ください。 <https://www.rion.co.jp/ir/>

会社案内 (2026年3月31日現在)

Corporate Data

会社概要

商号 …… リオン株式会社
 本社 …… 東京都国分寺市東元町三丁目20番41号
 創立 …… 1944年6月21日
 資本金 …… 20億7,925万円
 従業員数 …… 連結1,003名、単体499名
 事業内容 …… ○ 微粒子計測器 ・ 微粒子計測器
 ○ 医療機器 ・ 補聴器
 ・ 医用検査機器
 ○ 環境機器 ・ 音響・振動計測器

株式情報

発行可能株式総数 …… 32,000,000株
 発行済株式総数 …… 12,347,700株
 総株主数 …… 8,578名

大株主

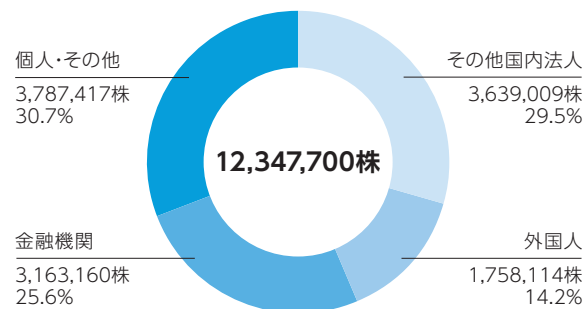
株主名	所有株数(株)	持株比率(%)
一般財団法人小林理学研究所	3,130,700	25.39
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,190,800	9.66
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	1,018,600	8.26
リオン取引先持株会	490,400	3.98
株式会社みずほ銀行	210,000	1.70
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505103	162,400	1.32
リオン従業員持株会	156,400	1.27
日本生命保険相互会社	150,000	1.22
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140044	149,500	1.21
RE FUND 107-CLIENT AC	132,300	1.07

(注) 持株比率は、自己株式17,382株を控除して計算しております。

取締役および監査役 (2026年6月25日現在)

代表取締役社長 …… 加藤 公規
 代表取締役副社長 …… 岩橋 清勝
 取締役会長 …… 清水 健一
 取締役 …… 篠崎 利之
 社外取締役(独立役員) …… 濱田 喜久子
 社外取締役(独立役員) …… 上田 麻理
 社外取締役(独立役員) …… 高橋 和伸
 社外取締役(独立役員) …… 江島 真也
 常勤監査役 …… 中野渡 誠
 社外監査役(独立役員) …… 佐久間 善弘
 社外監査役(独立役員) …… 寺町 東子

所有者別株式分布状況 (持株数)

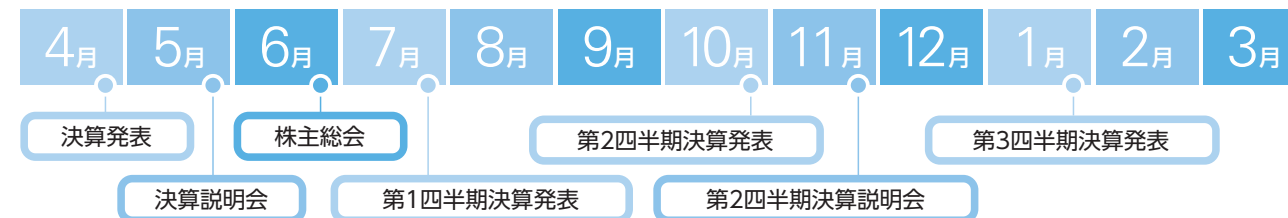


株主メモ

Stock Information

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月下旬
基準日 定時株主総会・期末配当 毎年3月31日
 中間配当 毎年9月30日
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 (電話照会先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031(フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
住所変更、单元未満株式の買取等のお申出先について 株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。なお、株券電子化の際、株券を証券会社の口座に入庫しなかったなどの理由により、特別口座において管理されている株式につきましては、三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。
未払配当金の支払について 株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

● IRカレンダー



株主優待制度のご案内

期末配当基準日(3月31日)現在の株主様を対象に株主優待を実施しております。

ジェフグルメカード(食事券)



100株以上 ▶ 500円分
 500株以上 ▶ 1,500円分
 1,000株以上 ▶ 3,000円分
 5,000株以上 ▶ 5,000円分
 10,000株以上 ▶ 10,000円分

【追加】100株以上かつ3年以上継続保有※ ▶ 1,000円分

※同一の株主番号で、毎年3月末と9月末の株主名簿に7回以上連続で記録された株主様を3年以上継続保有とみなします。

リオネット補聴器購入割引券



100株以上
 ※メーカー希望小売価格の10%割引 (片耳購入の場合は1台分) (両耳同時購入の場合は2台分)
 有効期間：1年間

表紙の写真

一〇〇選

音風景

残
し
た
い
日
本
の



澄んだ長良川の水面に金華山を映し、山頂の岐阜城が見守る鵜飼の舞台風景

● 岐阜県／長良川の鵜飼

長良川の鵜飼は、1300年以上の歴史をもつ伝統漁法で、毎年5月から10月にかけて行われる風物詩として親しまれています。夜の川面に篝火(かがりび)が揺らめく中、その明かりと熱で川底に潜むアユを驚かせ、捕りやすくする工夫が施されています。鵜匠(うしゅう)は『ホウホウ』と声をかけながら手縄を巧みに操り、鵜を導きます。さらに、船縁(ふなべり)を叩いて『ドンドン』と音を響かせることで、アユを驚かせて動きを促し、鵜の動きを引き出します。こうした人の声や船縁を叩く音、水しぶきや羽音が重なり合い、静寂の間に独特のリズムが生まれます。その音の強弱や間合いは、鵜匠と鵜の緻密な連携と熟練の技によって成り立っています。人と鵜、炎が織りなす情景が、幽玄で臨場感あふれる鵜飼の世界を一層際立たせています。

— 残したい“日本の音風景100選” —

残したい“日本の音風景100選”とは、1996年に環境庁(現・環境省)が選定した「全国各地で人々が地域のシンボルとして大切に、将来に残したいと願う音の聞こえる環境(音風景)」です。この100選には、小鳥のさえずりや海の波音、祭りの掛け声など、自然や人が作り出す様々な音が含まれ、北海道から沖縄まで、地域ごとの音風景が紹介されています。

リオン株式会社 〒185-8533 東京都国分寺市東元町3-20-41
TEL.042-359-7830(リオン株式会社 企画部 IR広報課)

<https://www.rion.co.jp>

UD FONT

見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

